

日朝色彩名義考釈

『長田夏樹論述集（下）』第26章
(原載：『水門一言葉と歴史』第10号, 1977年4月)

本論文は「アカ、シロ、クロ、アヲ」について、その語源を論じたものである。第1節では、名詞修飾に際して、語幹、語幹+キ、語幹+ラの諸形態を示し、「アカゴマ」のような不変化の語幹による名詞修飾をアルタイ諸語と比べている。第2節では「ラム<ラブ」をチュルク・モンゴル語の「黒くなる」*qarala-<*qara-ra-*、満州語の「赤くなる」*fula-ra-* の **-ra-* と比較している。第3節では朝鮮語の色彩形容詞が紹介され、第4節では日朝色彩語の「語源」が論じられることになる。末尾を引用する。

ここまで書いて来て、いざこれからは朝鮮語の色彩形容詞と日本語のそれが同源であることを証明する段なのであるが、例によって日朝両語の対応と共通基語形のみを示して責めをはたさせていただく次第。

上の記述のあと、次のような対応関係が示され論文は終わっている。

Ko. *pyrk* 《赤い》 : Ja. *akasi* 《id.》, KJ. **g^wálkä* ; Ko. *perk* 《真っ赤な》 : Ja. *akasi* 《id.》, KJ. **g^wálkä* ; Ko. *xyi* 《白い》 : Ja. *sira*~*siro* 《id.》, KJ. **jüfä* ; Ko. *xvi* 《真白な》 : Ja. *siru* 《顕るし》, KJ. **jüfa* ; Ko. *kem* 《黒い》 : Ja. *kuro* 《id.》, KJ. **kärä* ; Ko. *kam* 《真黒な》 : Ja. *kura* 《位》, KJ. **kara* ; Ko. *phyry* 《青い》 : Ja. *awo* 《id.》, KJ. **g^wázä* ; Ko. *phere* 《真青な》 : Ja. *awa* 《淡雪のアワ?》, KJ. **g^wazä*

加えてモンゴル語、満州語も部分的に参照されているが、日朝基語再構に至る過程は説明されない。1959年以来の日朝祖語形再構の試みは、本論文に至って内的再構による単語家族をも無視した、確信に満ちた臆断になったと考えざるを得ない。 (伊藤英人)